

社会科教育研究部

【令和元年5月現在】

主任 今 伸仁

部員 櫻庭 卓也, 佐藤 一幸, 對馬 秀孔

目指す児童の姿

既存の知識や獲得した情報を基にし、社会的事象について自分の考えを説明できる

社会科における納得解を導く姿を、「既存の知識や獲得した情報を基にし、社会的事象について自分の考えを説明できる」と設定し、研究に当たる。

I 目指す児童の姿について

1 具体として

①「既存の知識や獲得した情報を基にし」とは

児童が形成している社会認識や各種の資料や活動から獲得される情報を思考・判断・表現の材料とすることである。社会的事象の因果関係を捉えたり、社会的論争問題に対して価値判断し意思決定したりする際に大切なのは基礎となる情報を豊かに獲得することである。これらを基にすることで、考えは独りよがりなものではなく、科学性を伴い、他者にも一定の納得を得るものとなる。

②「社会的事象について」とは

岡明秀忠は、「社会的事象とされるものには、①人間に関する事象、②人間の行動に関する事象③人間を取り巻く環境に関する事象がある*1」と述べている。つまり、社会科で児童が説明する対象であり、説明する際に用いられる対象でもある。

③「自分の考えを説明できる」とは

学習を通して児童が自らの中に社会を見る概念装置を作り上げていき、社会的事象の因果関係を語れるようにすることである。また、児童それぞれが形成した社会認識を基に推測した未来像や決定した意思について、判断の理由を語れるようにすることでもある。

2 設定の背景

学習指導要領の小学校社会科の目標において、公民としての資質・能力の基礎を育成することをねらいとして示している。また、岩田一彦は「社会科の教育目的は社会認識を通して市民的資質を形成する*2」と述べている。公民としての資質・能力の基礎を育成するためには、児童に社会認識の形成を図る必要があると言える。社会認識とは、断片的な知識を覚えさせるのではなく、既存の知識や資料から読み取った情報等を基に、社会的事象間の因果関係を捉えることである。また、市民的資質について、岩田は「社会的価値判断を求められた際の合理的意思決定能力*3」と述べている。因果関係を捉え説明できるだけでなく、合理的に意思決定できるようにすることも肝要である。

*1森分孝治他「社会科重要語300の基礎知識」明治図書, 2000, p85

*2岩田「小学校社会科の授業設計」東京書籍, 1992, p52

*3同上, p53

Ⅱ 研究内容について

目指す児童の姿に迫るために、今年度は研究内容として以下の二点に取り組み、実践的に明らかにしていく。目指す児童の姿に迫るために、今年度は研究内容として以下の二点に取り組み実践的に明らかにしていく。

1 問題意識が生じる資料提示の在り方

社会的事象間の因果関係を捉えたり、社会的論争問題において合理的に意思決定をしたりする際には、児童に問題意識を生じさせることが大切である。そのために、既存の知識や生活経験と矛盾した社会的事象に直面させたり、価値対立の状況でどちらかの価値判断を迫らせたりすることによって問題意識が生じるようにする。

2 立場を明確にした話合いの設定

社会的事象間の因果関係を捉えたり、社会的論争問題において合理的に意思決定をしたりする際には、立場を明確にして考えさせるようにする。立場を明確にさせることでそれぞれの立場のメリットを明示させ、それらを関連付けることで社会的事象間の因果関係を説明できることにつながると期待できる。また、学習問題に含まれる多様な価値の中から、立場を明確にして話し合わせることで、複数の立場のそれぞれのメリットを明示でき、それらを判断の理由として合理的に意思決定をすることにつながると期待できる。

Ⅲ 研究・検証方法について

研究方法として以下の二点を取り上げ、児童の変容より研究内容の検証を図る。

1 量的な方法として、児童のノート記述より最初の判断(学習問題成立時の予想や判断)と最後の判断(授業末のまとめや判断)を比較し分析を行う。

2 質的な方法として、授業を記録した映像より話合いを書き起こしたプロトコルを基に分析を行う。